



新しいモノに挑戦するのはわくわくします

明 けましておめでとうございます。
おかげさんで、この連載も新年号で六一回になりました。

なんと五年を超えたんです。えらいことです。
最初、話があったとき正直、ビビりました。

僕は飛行機や人工衛星はりましたが、原子力とは余り縁がありませんでした。

確かに、お呼びがかかって、福井県の若狭湾の市や町で講演したことはあります。

そやけどそれは、人工衛星「まいど1号」の話で、中小企業の技術力や心意気をしゃべったもんでした。

原子力に関しては、講演したとき、発電所を見学させてもらい、安全に運転している印象を受けました。町工場の社長としては、原子力発電に頑張ってるように、電気料金安うして欲しいなあ、と思う程度です。正直な話。

それから二〇一一年に原子力発電の事故が起こって、どないなってるのや、安全やというのは僕の思い過ごしやったんか、と思ってたら「青木さん、連載お願いします」と依頼が来ました。

まあ、それまでの付き合いもあったし、大阪の、日本のモノづくりについて取り上げて欲しい、というんで引き受けましたが、まさかこないにつづくとは思ってませんでした。

幸い読者のみなさんからも評判はええ、と聴いています。
「あきらめたら、いつでもやめるで」と僕は言うてます。

**初めて手に取る人は
みな青木さんのコラムを読みます**

東京のおっちゃんは「この本、初めて手に取る人は、みな青木さんのコラム読むと聞いてます。人気あるんですね」とおだてます。

別に損するわけやなし、それはそれでうれしいもんです。

「東京と上方の寄席では、多少、雰囲気違いますけど、寄席に行くとき必ずトリの真打、例えば、人間国宝・柳家小三治師匠なんかの前には、楽に聴ける漫才とか漫談なんか入ります。それはそれで、大変な役なんです。膝代わり、上方ではモタレといひます。

それですわ、この『おもろいでっせ！モノづくり』はモタレです」とおっちゃん。

この人と話すと、いつも僕はほめられてるのか、おちよくられているのかよくわからないようになります。

そやけど、楽天的な僕は、ほめられてるのやと、思うことにしてます。



●(株)アオキ取締役会長
青木 豊彦 (あおき・とよひこ)



1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。

さて、新年号ですので、やはり夢を語りましょう。いつも言いますが、僕のテーマである大阪を元気にするには、大阪で多い中小企業を元気にすることやと思います。

前から言うている医療コンソーシアム、これは医学と中小企業の技術を結びつけるという志を持った団体ですが、さらにこれを応援する組織をつくりたいと思っています。

応援する企業は、モノづくりの会社にこだわらず、サービス業でも、それこそ農業や水産業の会社や団体でも、ええと思います。

一緒に、大阪を元気にするために起爆剤となる医療コンソーシアムを応援しよう、というグループをつくらうと思います。

おかげさんで、全国に人脈もできました。

その中でも、大阪と、なんと言っても資金も人材も豊富な東京との太いパイプができて 庶民的な物流、情報の交換がやれば、と思います。

**医療コンソーシアムの応援団づくり
水彩画への挑戦がモットーです**

そして、個人的には昨年末、宣言した水彩画も、カルチャーセンターで、もうやってまっせ。地方の講演で休む日は、後で一人で教えてな、と先生に言ってます(笑い)。

それにしても、タダやなくお金を払うと熱心になりますなあ。時間を大切につかえるようになります。現金な奴や、と思われるかもしれませんが。そやけど、人間ってそんなものやありませんか？

(写真撮影：氏野光子)



●学んだことを歩きつつ暗唱していたのが本来の意味、という二宮金次郎の銅像

そんなこんなで、「公」には医療コンソーシアムの応援団づくり、「私」としては水彩画への挑戦が今年のモットーです。

新しいモノに挑戦するのは、わくわくします。

まして、宣言したので、引くわけにいきません。初夢を夢でなくすために、がんばりますので、よろしゅうお願いします。

最後にこんな言葉見つけましたんで、年始の挨拶代わりに載せさせてもらいます。

二宮尊徳さんの言葉です。

「道徳なき経済は罪悪であり 経済なき道徳は寝言である」
(二宮尊徳) どうです。ええ言葉でしょう？

昔は小学校なんかには、尊徳さんの銅像があったんですが、今はあるんですかな。

銅像の新背負うて本読んてる姿は、歩きスマホの元祖かいな、と間違う若い人もでるかもしれません。時代経つと、その精神を伝えるのもむずかしゅうなります。

僕も寝言にならないように、経済を大事にしたいと思います。